

透析用 カテーテル管理 患者様用

VERSION 2



医療法人 心信会

池田バスキュラーアクセス・透析・内科

Access/Nephrology/Dialysis

目次

1. カフ型カテーテルについて.....	3
2. 出口部の消毒.....	6
3. 手順.....	8
4. 防水処置手順.....	11
5. 出口部の赤みに対するケア.....	13
6. 日常生活の注意点.....	15

2022年9月 作成
2026年3月 更新

1. カフ型カテーテルについて

A) カフ型カテーテルとは

透析を行うために体に入れる管です。
皮膚の下を通して血管まで入っており、
「カフ」という部分が体の組織とくっつく
ことで抜けにくい構造になっています。



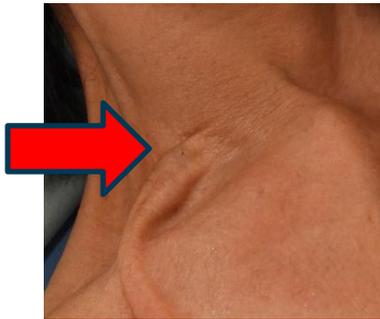
(図 1)

【画像出典元】株式会社林寺メディロール HP

㉓カフ（ポリエステル繊維）が皮下組織と癒着することで
抜けにくく、感染しにくい仕様になっており、
長期に使用できるカテーテルです。（図 1）

B) カテーテルを入れるところ

- ① カテーテルは、首の静脈から入れて、右心房に留置されます。（写真1）
- ② 体の表面に出ている部位を出口部と呼びます。（写真2）



（写真1）



（写真2）

C) カテーテルの特徴

<良い点>

- ① 針を刺さなくていいです。
- ② 透析中に両手が使えます。
- ③ 心臓への負担が少ない方法です。

<注意が必要な点>

- ① カテーテルは、体にとって異物です。
そのため、感染のリスクがあります。
- ② カテーテルの中に血のかたまり（血栓）ができることがあります。

- ③入浴は感染の原因にもなるため、基本的に下半身浴です。カテーテルが濡れないように防水の処置が必要となります。



D) カテーテル挿入後の注意点

- ①透析時やカテーテルの処置を行う際は、前開きの肌着やシャツの着用をお勧めします。患者様の負担が少なく、処置が行いやすくなります。



- ②術後、車に乗る際は、シートベルトがカテーテル部に当たると痛みの原因になることがあります。タオルで保護をしたりすることをお勧めします。



- ③カテーテルは皮下のカフが組織と癒着することで固定されています。
しかし強い力が加わると、カフの癒着が安定せず抜けてしまう可能性があります。
固定することが抜去予防や感染予防につながります。

異常を感じた場合は、
自己判断せず維持透析
施設へ連絡して下さい。

2. 出口部の消毒

A) 出口部の消毒について

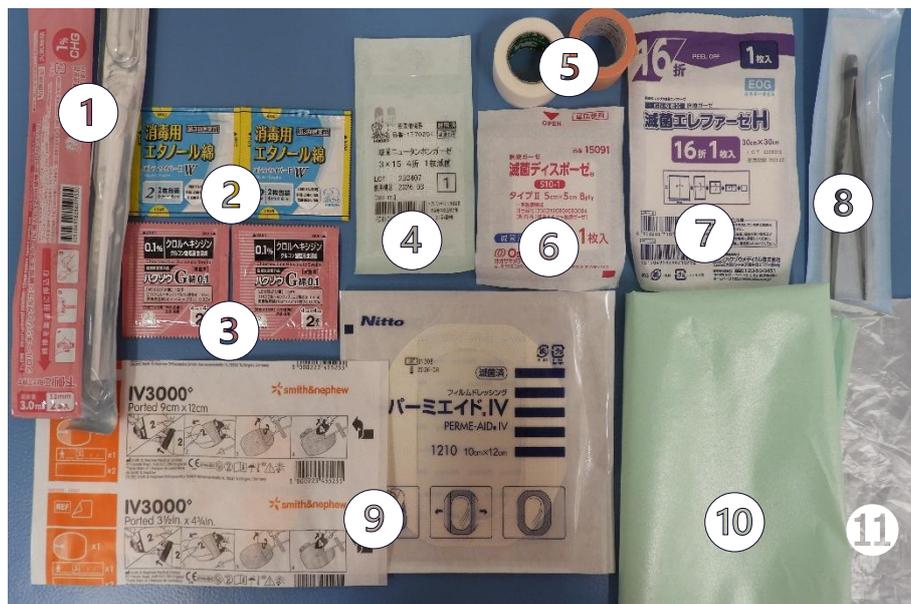
- ① 基本的に出口部の消毒は、トレーニングを受けた方だけが行います。
- ② カテーテル出口部の処置は、直接触れず必ず滅菌鑷子を使用します。
- ③ カテーテル処置を行う際は、口や鼻の粘膜に付着したウイルスや微生物の飛沫や飛散予防のため、必ずマスクを着用します。
- ④ 貼付剤交換は基本的に週に1回行います。
何度も交換することは、感染リスクとなりますので注意が必要です。ただし、夏場や

汗による汚染や痒みを伴う場合は、透析毎に交換を必要とすることもあります。

(医師が必要と判断した患者様)

<在宅血液透析患者様用の必要物品>

	物品	使用目的・備考
①	1%CHG 綿棒 (2本)	出口部消毒用
②	消毒用エタノール綿 (2袋)	カテーテル消毒用、テープ糊除去用
③	0.1%CHG 綿 (2袋)	皮膚の清浄、消毒
④	滅菌チリガーゼ (1枚)	出口部巻き込み用、出口部固定用
⑤	テープ	ガーゼ、カテーテル固定、ビニール袋固定用
⑥	滅菌ガーゼ小 (1枚)	ドレッシングフィルムのテープ糊付着防止用
⑦	滅菌ガーゼ (1枚)	カテーテル保護用
⑧	滅菌鑷子	出口部清潔操作用
⑨	ドレッシングフィルム : IV3000 or パーミエイド®IV	カテーテル保護用
⑩	未滅菌処置用シート (1枚)	汚染防止用
⑪	ビニール袋	カテーテル防水用

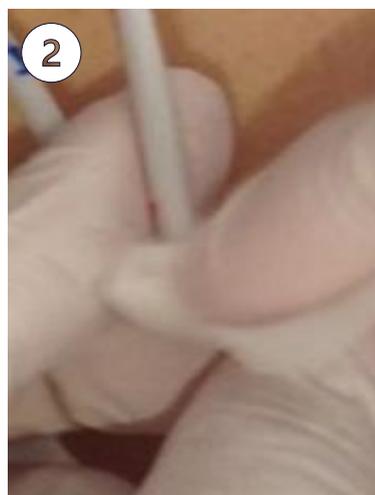


3. 手順

A) テープ糊を取る

- ① 消毒用エタノール綿でカテーテルを包み込んで、上下に動かしテープ糊を除去します。
- ② 消毒用エタノール綿でカテーテルを擦るようにしてテープ糊を除去します。

※ カテーテルの管にテープの糊が残ると感染の原因になることがあります。消毒用エタノール綿で、粘着感がなくなるまで拭き取りましょう。この時、カテーテルを引っ張らないように注意しましょう。

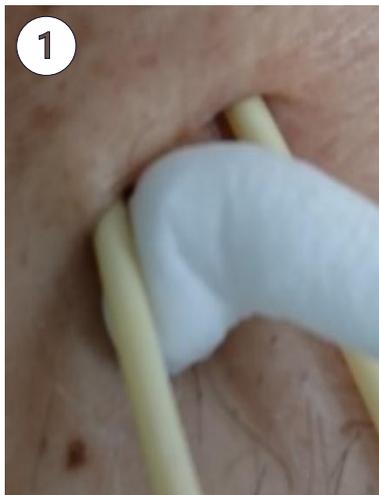


B) 出口部の消毒

- ① 1%CHG 綿棒を使用し出口部の下側を先に消毒します。(次ページ①②)

② 1%CHG 綿棒の消毒面をかえて上側を消毒
します。出口部に角質が貯留しやすいので、
丁寧に取り除きます。

<POINT> 1%CHG 液に十分浸した後、
綿棒を適量に絞り使用することで液だれを
防ぐことができます。



③ 貼付剤がカテーテルに直接触れないよう、
小ガーゼで保護します。その上にドレッシ
ングフィルムを貼ります。テープ糊が付着
するのを防ぐためです。

④ カテーテル先端をガーゼで保護します。



(④写真3 貼り込み完成)

出口部周囲のスキンケア

- ① 皮膚の清浄剤や保護剤などを使用し、出口部周囲のスキンケアに努めることが、トラブル予防のために重要です。

<当院採用の皮膚清浄材>

- ① リモイス® クレンジ
- ② リモイス® クレンジ泡



<当院採用の皮膚保護材>

- ③ ピュアバリア



※ 皮膚清浄後に、皮膚保護剤を塗布します。

4. 防水処置手順

A) 防水処置手順：全体を保護する方法

- ① 貼り込みが完成した状態（P:9 写真 3）で、全体を覆うように★保護ガーゼを置きます。
※水の侵入を防ぐ役割と、入浴後に防水テープだけを剥がすためです。
- ② 防水テープを貼付します。広範囲の防水処置の為、慣れない時は☆防水テープを2～3分割して貼ると上手に貼れます。
- ③ 防水テープの端にズレやヨレが生じた場合は◎小さく切った防水テープで補強するのも効果的です。



- ④ シャワー浴後は、上にのせた★保護ガーゼと☆防水テープ（◎補強用防水テープ）を除去します。

B) 防水処置手順：ビニール袋使用法 (防水テープが少なめ)

- ① 貼り込みが完成した状態 (P:9 写真 3) で、カテーテル部分の長さに合わせて切ったビニール袋を被せます。矢印部分の根本をしっかりと押さえます。
- ② 水の侵入を防げるように、しっかりと押さえながらビニール袋を巻き付け、テープで固定します。



- ③ ドレッシングフィルム上に★保護ガーゼを置きます。
- ④ ★防水テープを貼ります。



⑤ シャワー浴後は、上にのせた★保護ガーゼと☆防水テープを除去します。

5. 出口部の赤みに対するケア

A) 出口部の炎症に対する固定

<必要物品>

	物品	使用目的・備考
①	滅菌ヘラ	軟膏塗布用
②	鑷子 (2本)	出口部処置用
③	ゲンタシン軟膏 0.1% (目的菌に合わせた軟膏)	治療用の抗菌剤軟膏
④	滅菌チリガーゼ (2枚) ※細長い滅菌ガーゼのこと	出口部巻き込み用、出口部固定用
⑤	滅菌ガーゼ小 (1枚)	ドレッシングフィルムのテープ糊 付着防止用
⑥	滅菌ガーゼ (1枚)	カテーテル保護用
⑦	ドレッシングフィルム : IV3000 or パーミエイド®IV	カテーテル保護用



B) 手順

- ① 滅菌ヘラにゲンタシン軟膏を付けます。
- ② ゲンタシン軟膏 0.1%を IFTU 程度発赤部に塗り込みます。
- ③ 滅菌鑷子を使用し、チリガーゼ (P:13 ④) をカテーテルの管に巻き付けます。

※ IFTU (fingertip unit) とは人差し指の先端から第一関節までチューブから絞り出した量



- ④ 1本ずつチリガーゼで固定します。
- ⑤ カテーテルの管を滅菌ガーゼで保護します。
- ⑥ ドレッシングフィルムを貼り込みます。



6. 日常生活の注意点

A) 入浴について

- ① 入浴は基本的に下半身浴、シャワー浴で、カテーテルが濡れないように防水処置が必要です。

(P:11~13 4.防水処置手順参照)

- ② シャワー浴後は、防水処置の★保護ガーゼと☆防水テープを除去します。

(P:11~13 4.防水処置手順参照)

- ③ もし濡れてしまった場合は、そのままにせず、すぐに清潔にして貼付剤を交換して下さい。
- ④ トレーニングを受けていない方は、維持施設に連絡をし、施設で貼付剤の交換を行ってもらって下さい。

B) 運動について

- ① カテーテルを引っ張らないよう、ひっかかないよう注意が必要です。
- ② 胸郭が厚い、胸筋が発達しているなどで、カテーテルの動揺が強い場合はカテーテルを体幹に固定することでトラブルを防ぐことができる場合もあります。
- ③ クランプ部が体幹に接触し疼痛を生じることがあるので、クランプの突起が体幹側に接触しないようにします。(P:3 図1 ⑥)
- ④ 夏場や運動後など汗をかいた場合は、感染の原因になりやすいので、必ず消毒し貼付剤を交換して下さい。

(P:6~10 2.出口部の消毒参照)